スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

広島県府中町

自 治 体 名 ： 広島県府中町
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： 082-286-3271

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	10.41㎢
人口	51,984人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	1,294 人
部活動数（運動部活動のみ）	25部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

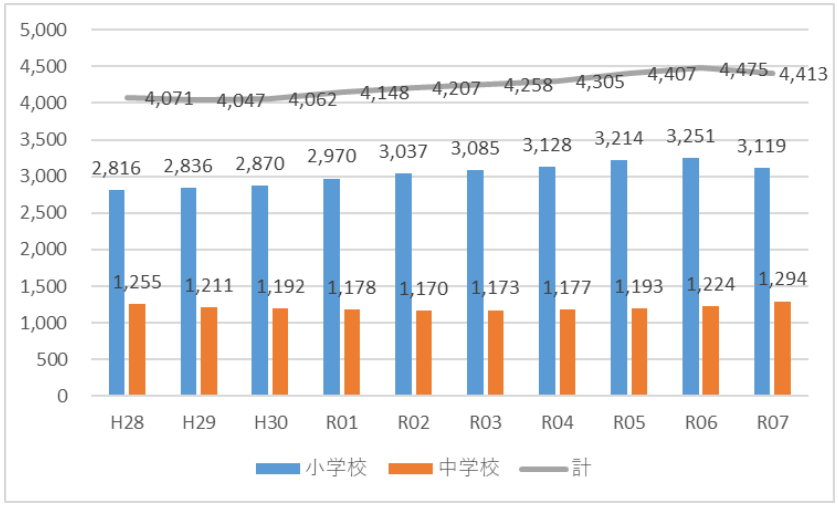
本町は、昭和62年から現在に至るまで人口50,000人台を維持している。町内には小学校5校、中学校2校の計7校の学校があり、令和7年5月1日現在の児童生徒数は4,413名（小学校3,119名、中学校1,294名）となっている。

両中学校には、それぞれ12及び13の運動部活動があり、現状として単独によりチームを編成できないといった状況はない。

部活動の地域連携及び地域展開の取組として、令和5年度から総括アドバイザーの配置及び部活動指導員の配置を進めるとともに、令和6年度からは、両中学校陸上部（一中学校長距離を除く）の休日における練習を地域スポーツクラブへ展開するモデル事業を実施している。

令和8年度以降は、本モデル事業の成果や課題、地域の実態等を踏まえ、本町における部活動の地域展開に向けた方向性を明確にするとともに、生徒、教職員、保護者、地域の方々との合意形成を図りながら取組を進めていくことが必要である。

府中町立小中学校の児童生徒数の推移

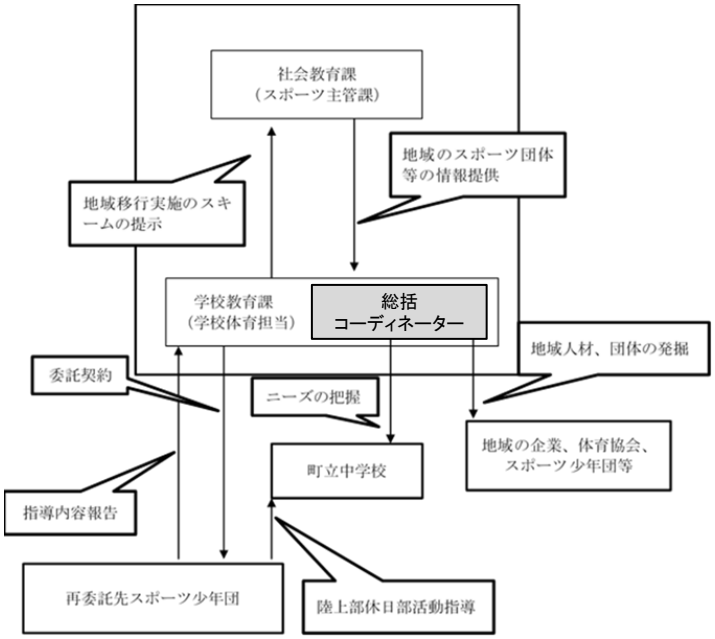


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉**教育委員会**（学校教育課・社会教育課）

・学校教育課：学校部活動の地域連携・地域移行に係る学校との調整・連携等の窓口

・社会教育課：地域のスポーツ・文化に係る各種団体のとの窓口、環境整備

・コーディネーター：各中学校のニーズ等の把握、地域等の団体との連携　等

年間の事業スケジュール

時期	内容
4月	令和7年度 モデル事業実施
7月	総括コーディネーターにおける 町内中学校長へのヒアリング
8月	県教育委員会とのミーティング実施 （県市町共創ミーティング）
9月 ～ 1月	実施団体候補者との面談 町内住民等への周知 （広報紙への掲載）
3月	検討会の開催 府中町立中学校における学校部活動の地域展開に向けた方針（案）策定

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		1クラブ（陸上部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	5人	全体の運営スタッフ数	1人(兼指導者)

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
府中空城ジュニア陸上クラブ	スポーツ少年団	陸上	休日1回	8:00～11:00	第1学年 第2学年 第3学年	令和7年4月12日～令和8年2月8日	5人	1人 （内、兼務0人）	1,000 円/年額 （保険料）	中体連：部活動

2.実証内容と成果

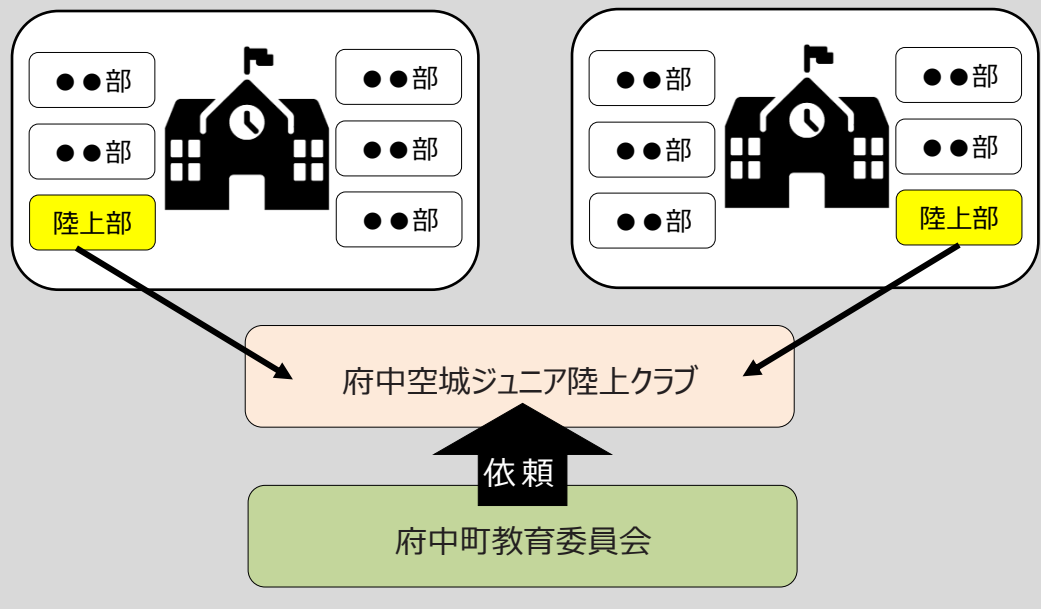
スポーツ庁

主な取組例

●府中空城ジュニア陸上クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施 した種目	陸上
運営団体名	府中空城ジュニア陸上クラブ
期間と日数	令和7年4月12日（土） ～ 令和8年2月8日（日） 月4回程度
指導者の主な属性	クラブ所属指導者
活動場所	町内中学校及び近隣スポーツ施設
主な移動手段	徒歩及び公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	1,000円(保険料含む)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

・統括責任者　1名　　役割：当該クラブの運営等に関わる責任者

・事務局　1名（統括責任者が兼ねる）　役割：事務的業務、練習　場所の確保、指導者との連携、学校、保護者との連絡連携等コーディネーター業務

・指導者　5名　役割：中学校部員に対し競技技術の指導、安全上の管理

・サポーター　保護者若干名　役割：練習時、ケガ等の対応等の全体サポート

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 教育委員会担当課、学校、地域の各種団体等との連携
- 部活動の地域連携及び展開に向けた地域への周知活動
  ※　町広報誌やHPにおける周知
- 活動に伴う保護者説明会の開催
- 府中空城ジュニア陸上クラブとの連絡・調整
- 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップの作成
- 保険手続き（加入案内、収納、加入手続き、事故通知窓口）
- お便りの作成、印刷、配布

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- コミュニケーションアプリ(BAND)の活用

モデル事業1年目の振り返りで保護者より当日連絡の難しさが挙げられた。

反省を活かし、連絡アプリの導入を検討。有料アプリも検討したが、現段階ではモデル事業としての活動であるため、無料アプリを使用した。

2校の互いに知らない保護者が参加する点が気がかりであったが、トラブルなく活用いただけた。

出欠の確認だけでなく、練習場所・時間の確認、解散連絡等多岐にわたり活用することができた。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

・『スポーツ団体向けガバナンスコード＜一般スポーツ団体向け＞に係るセルフチェックシート』、『町内医療機関リスト』を配布した。

・スポーツ少年団登録団体であり、指導者全員がJSPO資格、県陸上競技協会審判資格の両方、いずれかの資格保持者であるとともに、運営スタッフが日本陸連エデュケーター資格を保有しており、安全管理等必要に応じて団体指導者に最新の情報共有を行った。

・参加者全員がスポーツ安全保険に加入(自己負担)するとともに、救急箱の常備、スタッフ数名の携帯電話の保持、夏場の氷の準備、保護者サポート（看護師含む）等、緊急時にも備えた。また、男性スタッフのみの練習日は保護者(母親)数名に練習時見守りサポートを依頼し、生徒・スタッフ相互の安心と安全に配慮した。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

モデル事業における安全管理対応方針の作成

＜報告、連携体制の構築＞

・スタッフ内の緊急時の役割分担、部活動顧問との連携構築を図り、事故・トラブル発生後は部活動顧問と連携し、学校の判断を仰いだ。

・生徒の体調面等に懸念がある場合は、養護教諭と連携した。コーディネーターが部活動指導員を兼務しているため学校との連携が可能であった。

・医療機関の把握（町内病院マップ配布、当番医の確認等）や緊急連絡先の把握（入部時、保護者からクラブへ提出、保険の加入）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

・人材の発掘に対する取り組みとして、HP、SNS、求人媒体等を活用した公募による募集
・町独自の求人説明会を年4回実施した。部活動指導等に興味を有する方が複数名参加した。
・HPに部活動指導員を紹介するページを作成するとともに、町の広報誌に部活動指導員及び部活動の地域展開に向けた内容を掲載する等、町民に広く周知した。
・3月に部活動指導員の服務、規律に関する研修会を開催(オンライン)

取組の成果

・町独自の求人説明会に参加された方の2名が、年度途中から部活動指導員として生徒の指導を実施するなど、求人説明会により新たな部活指導員の人材を確保することができた。
・HPや町の広報誌を通じた情報発信により、見られた方から、部活動の地域展開に関する問い合わせが複数寄せられるなど、関心が高まりつつあることが確認できた。
・研修会の実施により、部活動改革の目的や部活動指導員の基本的な服務規律や安全管理等について理解を深めることができた。

今後の取組における課題

・地域クラブ活動の定義、地域クラブとしてどのような団体が参入できるのか等との要件、認定手続きなど、制度面の整理が進んでいない。
・地域クラブの数や内容のバランスについても検討が必要である。指導者の確保状況や施設利用の制約等を踏まえた現実的な計画が求められる。
・地域クラブの管理・運営団体の設定に向けた具体的な動きを検討してい浮く必要がある。
・地域や各種団体との連携や指導者の質の保障に向けた取組の推進等も検討していく必要がある。

課題への対応方針

・国の地域クラブ活動に関する認定制度を参考に、町の認定制度について検討、確立する。
・町における適切な地域クラブの数・内容、バランス等を検討する。また、必要に応じて地域への周知活動を進める。
・地域クラブ活動を管理する団体を検討し、関係課とも連携しつつ管理内容等について整理する。
・指導者の質の保障に向けて、引き続き研修会の内容や開催方法を検討する。
・部活動の地域連携や地域展開に向けた周知活動を継続する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・体育・スポーツ協会、競技団体、総合型地域スポーツクラブ、大学、企業等との連携を図った。
・今後の地域連携及び地域展開に向けて、総合型地域スポーツクラブとの協議を複数回実施した。
・公民館、中学校運営協議会への情報提供を行った。
・中学校学校長ヒアリングを実施した。

今後の取組における課題

・部活動地域展開に向けた方針を作成し、ロードマップに沿って進めていくことが必要である。
・行政内における連携と役割分担を整理する必要がある。
・スポーツ推進委員をはじめ大学や企業等他機関との連携を充実させていく必要がある。
・方針作成後、教職員への説明会の開催等、部活動地域展開に向けた周知活動を進める必要がある。

取組の成果

・今後の部活動の地域展開に向けて、総合型地域スポーツクラブと連携し、目指す方向性を確認することができた。
・公民館、中学校運営協議会、CS等へはスポーツ庁のガイドラインについて説明した。その際、府中町の方針については、現在検討中である旨を伝える等、現状の周知を図った。
・中学校学校長に現状と今後の展開の目標等を伝えることができた。また学校現場の思いを確認することができた。

課題への対応方針

・令和8年度以降の方針を令和7年度中に作成し、ロードマップに沿った取組を推進する。
・協議会を開催し、様々なステークホルダーの意見を踏まえ取組を推進する。
・行政内での役割等を明確にし、各部署で連携を取りながら展開を進めていく。
・学校を含む町内施設の現状を踏まえ、展開後の施設利用のルール等を検討する。
・教職員の兼職兼業を含め、教職員のクラブ活動への今後の関わり方について検討する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

・総括コーディネーター、町教育委員会の担当者等が、近隣市町の取組の進捗状況や抱える課題を把握、交流するための訪問を計画した。（調整が難しく実施には至らなかった。）

・県に対し、県内他市町の状況を聴取し、整理して提供するよう求めた。

・様々な機会を通じて、総括コーディネーター、町教育委員会の担当者等が、近隣市町の状況を聴取した。

取組の成果

・部活動については、学習指導要領にも示される全国的な取組のため、町単独での取組に苦慮しており、近隣市町との連携を通して、多くの市町が同様の悩みを抱えている状況があることが分かった。

・近隣市町の方針として、運営主体の候補が固まっている市町、教育委員会が中心になって進める方針の市町、部活動として継続させる方針の市町等、まちまちであることが分かった。

今後の取組における課題

・各市町により学校数や児童生徒数、面積、立地条件等が異なるため、似通った状況の市町と連携できる体制づくりが必要である。

・県を中心とした協議会を開催する等、県内全域の市町が一定程度の足並みを揃えた取組となることが重要である。現状では、取組はまちまちな状況であり足並みを揃えるのは難しい。

・町としての方向性を確立するためには先進地域を訪問することが有益であるが、訪問に必要な予算確保が必要である。

課題への対応方針

・先進地域の具体的な取組を学ぶため、Zoomミーティングやオンデマンド配信を積極的に活用し、予算を抑えつつ効果的な情報収集を行う。また、必要に応じて視察のための予算確保を検討する。

・似通った状況の市町を選定し、継続的な意見交換や合同研修の実施など、具体的な連携ができるよう検討する。

・町における方針を作成し、作成後は協議会の開催を通して多様な意見を踏まえ、随時ブラッシュアップを図っていく必要がある。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

・練習会の参加、競技場での練習会の実施

月1～2回、広島市陸上競技協会開催の専門練習会へ参加し、技術指導を受けるとともに、学校施設以外の場で練習を行う機会を設定した。

・悪天候時の室内練習の実施

悪天候時に学校以外の公共施設を使用し、練習できる体制を整えた。

・生徒によるワークショップの実施

「生徒の多様なニーズに応じた取組」として、生徒によるワークショップを実施する予定であったが、開催できなかった。

取組の成果

・練習会への参加により、専門の指導者からの指導を受け、技術面の向上、競技者意識の高まりが見られた。また、他校の生徒との交流も深まり人間関係の広がりが生まれた。

・競技場で練習することにより、練習の質や意識の向上、場所に慣れることによる大会当日の不安の軽減が図られた。

・交通機関の使用ルールやマナー、他の指導者等への挨拶、他者との関わり等、多方面の学びがあった。

・悪天候時に室内の場所を確保し、走練習以外のトレーニング、ケガ予防等の勉強会等を開催することができた。

今後の取組における課題

・費用負担について
学校以外の施設で練習する際は使用料、参加費、交通費が必要となることから、受益者負担の在り方について検討する必要がある。
・事前の連絡や周知の方法について
練習会に参加する際は、送迎の観点からも生徒や保護者への早めの周知が必要となる。
・配慮が必要な生徒への取組
健康上の理由や障害の有無等により、日常と違う環境となることで対応が難しい生徒もいることから、そのような生徒への対応が必要である。
・ワークショップの開催について
町としての方向性を明確にしたうえでの開催とする必要がある。

課題への対応方針

・練習会の参加・他施設での練習で発生する参加費用、交通費、または送迎という保護者負担について合意形成を図る必要がある。

・連絡アプリの活用やお便り発行等、平素からの保護者との信頼関係構築のための取組が必要である。

・自校の練習にしか参加できない生徒について、今回のモデル事業は学校部活動を基盤として行ったため理解を得られたが、今後の対応は検討が必要となる。

・町としての方向性を明確にした後は、生徒、保護者、教職員、地域の方々等、多くの方の意見を伺う機会を設定する必要がある。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

・モデル事業を基に、休日の部活動を地域クラブへ展開した場合に必要な受益者負担を以下のとおり試算した。

①指導者への謝金

謝金計／所属生徒数＝1,614円/時間

生徒数　合計49人(令和7年度)

府中中25人、府中緑ヶ丘中24人(長距離5人、短距離19人)

②保険料等

一人当たり800円

③会場使用費　9,630円

一人当たり300円/月

④各種用具等

一人当たり3,000円/年

⑤その他（連絡ツール使用料等）消耗品費　50,078円

雑費(送金手数料、消耗品費等)

＜空城ジュニア陸上クラブの指導者への謝金の状況＞

	指導回数	謝金
A	74回	119,436円
B	83回	133,962円
C	77回	124,278円
D	99回	159,786円
E	12回	19,368円
計	345回	556,830円

＜講師謝金＞
556,830÷12＝46,402　約50,000円･･･約1,000円/1人

＜保険料＞
個人負担　800円/年(+送金手数料)　スポーツ安全保険

＜会場使用料＞
9,630円/年

＜各種用具等購入＞
50,078円/年

＜その他（連絡ツール使用料等)＞
送金手数料、消耗品費(救急道具等)、事務手数料

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

・学校施設の効果的な活用や管理方法に関する「学校の施設・設備・備品等の利用ルールの設定」を進める計画であったが、関係者との調整や現状の整理等に時間を要し、ルールの設定には至らなかった。

・現在の学校開放事業における学校施設や備品の使用ルール、使用頻度等学校施設の活用に向けて状況を調査した。

取組の成果

・この度のモデル事業においては、利用ルールの設定にまでは至らなかったが、現在、町内学校施設の使用は学校行事や部活動等、学校の教育活動を優先していることを確認できた。

・部活動の学校施設等の使用に係る調整は各部活動顧問が行っていることが分かった。

・ホール等の学校備品等、現在も学校開放事業で利用可能としている物品と楽器の内大型楽器を除く管楽器等利用を認めていない物品など現状の整理が進んだ。

今後の取組における課題

・部活動の地域展開を進めるにあたっては、学校施設や設備の開放に係る担当窓口の設定やルールの作成を進める必要がある。

・学校部活動がある中で、地域展開を進めていくことは、現在の学校施設等の活用等の状況を踏まえると課題が大きい。

・地域展開後に利用させる学校施設について、急遽学校の教育活動で使用する必要がある場合の手続きを確立する必要がある。

・学校施設だけでなく、地域展開後の活動で楽器等高額な備品を生徒が使用する際の責任の所在や使用のルールを確立していく必要がある。

課題への対応方針

・学校施設利用、貸出の管理を行う窓口の設定とともに、貸出に関する明確なルールづくりが必要である。

・利用団体による施設や備品の損傷等が発生した場合の責任の所在等、使用方法等に関するルールづくりも必要となる。

・地域展開後の活動を学校の都合により中止する際の対応や手続きを含めたルールづくりが必要である。

・関係者が多岐にわたるため、学校の施設・設備・備品等の利用ルール作成にあたり丁寧な連携が必要である。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

取組事項

・地域クラブの体験加入/空城ジュニア陸上クラブによる通常練習日の開放
学校施設では練習が困難な種目があるため、空城ジュニア陸上クラブ練習日(水、金曜日夜)を両校陸上部の生徒に開放した。会費を取らず、希望者のみの自由参加として受け入れを行った。

・拠点校部活動の取組
中学校2校を1つの場所に集めて共に活動を行った。

取組の成果

・練習の参加率はA中学校はほぼ全員参加、B中学校は3分の2程度であった。練習グランドがＡ中学校校区内にあること、卒団生が中学陸上部に多いことが原因と考えられる。

・より専門的な指導が受けられるとともに、大会前に設備の整った環境で練習ができた。また、長距離の生徒は日中の猛暑を避け、夜の練習時間で活動でき、安全面を確保できた。

・学校部活動とは違う環境を通じて、生徒の向上心や競技意欲が高まり、満足度にも影響していた。

・拠点校活動により、指導者が1か所に集うことができたため、指導者の確保や安全、安心な活動に繋がった。

今後の取組における課題

・夜時間の練習もあるため、保護者の状況により参加したい生徒が参加できないこともあった。

・モデル事業のため、クラブとしては入会という形を取らず無料開放としたが、戸惑われる保護者もいた。今後、会費を徴収した場合、どれだけの生徒が参加するかは未知数である。

・本モデル事業は、休日が対象であったこと、また、両校が徒歩圏内であったことが幸いし、生徒自らが移動し活動することができた。活動場所によっては、今後の課題となることが考えられる。

・学校部活動は、学校で普段の生徒の様子を把握している教員が行う教育活動の一環だが、地域クラブにおいては、教育的な指導の在り方や障害、特性等に対する対応の知識の無さ等により対応の困難さが生じる可能性がある。

課題への対応方針

・クラブ入会説明会の開催
次年度から練習に参加する際はクラブ員としての登録が必要となるため、クラブの入会についての案内を行い、理解を図る。

・学校との連携体制の構築
学校との情報の共有が重要となる。中学生は思春期に入り心も体も大きく成長する時期のため、担任のみならず養護教諭との連携は重要である。この度のモデル事業においては、コーディネーターを通してその都度対応した。トラブル、ケガ等はいつ起きるか分からない上、早急に対応しなくてはならないため、地域クラブと学校がいつでも連携できる体制を構築する必要がある。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本町においては、令和5年10月1日に、「府中町立中学校における学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に向けた方針」を作成した。

作成当初は、令和5年度から令和7年度にかけて、以下のとおり取組を進める予定だったが、予定通りに進めることができなかった。特に地域の関係団体や保護者、有識者等を加えた協議会等の設置・開催は実施できなかった。

現在、令和8年度から令和13年度までの計画等を示した「府中町立中学校における学校部活動の地域展開に係る方針」を作成しており、今後は本方針に沿った取組を進めていく必要がある。

＜令和5年度＞

部活動指導員の配置、コーディネーターの配置、検討委員会の開催、地域への周知、地域の団体及び人材の掘り起こし、地域クラブ活動への移行に向けたモデル事業の実施に向けた取組、各種規定等の整備

＜令和6年度＞

・部活動指導員の継続配置、地域クラブ活動への移行に向けたモデル事業の実施（第Ⅰ期）、検討委員会の開催、地域への周知、地域の団体及び人材の掘り起こし、協議会の設置準備、各種規定等の整備

＜令和7年度＞

部活動指導員の増員検討、地域クラブ活動への移行に向けたモデル事業の実施（第Ⅱ期）、検討委員会の開催、モデル事業の成果と課題のまとめ、協議会の設置・開催、令和8年度以降の取組等についての検討

●成果の評価

・総括コーディネーターを中心に地域への周知活動は進めることができた。

・モデル事業を通じた成果や課題を整理することができた。

・令和8年度以降の学校部活動の地域展開に係る方針案を作成することができた。

・部活動指導員を増員することができた。

●今後に向けて

・令和11年度の部活動の地域展開の全面実施を見据え、協議会の設置し様々な検討課題について検討していく必要がある。

具体的には、運営団体の検討・決定、地域クラブ活動に関する認定制度の策定、地域クラブ活動の掘り起こし・承認、指導者の質の保障・量の確保、関係団体・分野との連携、内容の充実、学校施設・設備の貸出のルールづくり等である。

・地域展開時に生じることが予想される保護者負担の激変緩和、運営団体への補助金等、必要なランニングコストについて財源を確保する必要がある。

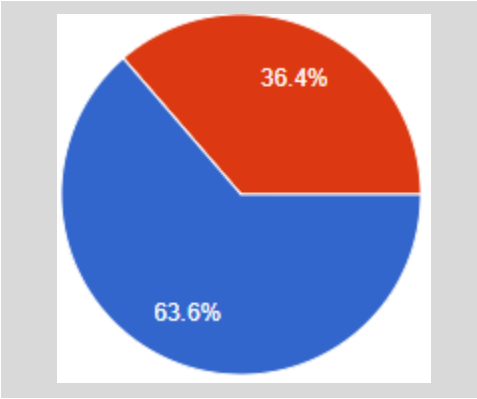
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

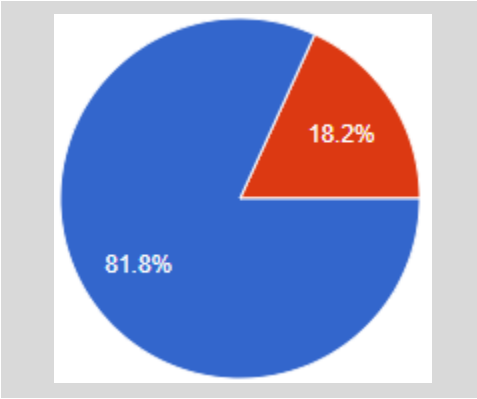
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

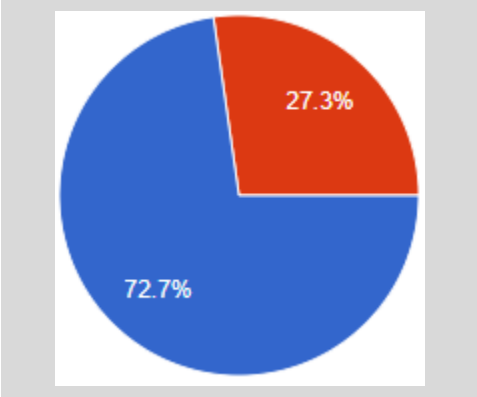
Q.あなたは、土日の練習を地域クラブで行ったことについて、どう思いましたか?

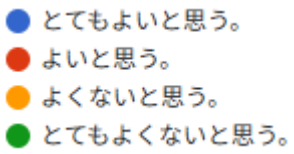


Q.あなたは、他の中学校の生徒と共に練習することについて、どう思いましたか?



Q.あなたは、自分の学校以外の場所で練習を行うことについて、どう思いましたか?





●参加者の声

Q.あなたは、土日の練習を地域クラブで行ったことについて、どう思いましたか?

・より専門的な指導者がいるため、質の良い指導を受けられたから。
・練習ができる環境が整っていたから。
・コーチ方にたくさんの指導をしてもらえることはとても嬉しいですが、場所が遠い事があるので親に送迎してもらうのはもうしわけないです。

Q.あなたは、他の中学校の生徒と共に練習することについて、どう思いましたか?

・他の中学校の生徒と交流することで色々な人と技術を高め合ったり、練習し合ったりできるから。
・他の中学校の友達ができるし、いつもと違う仲間と練習できることが楽しいから。
・他の学校と練習することでその学校の練習の仕方やライバルの走り方を見たりすることができるので良いと思いました。

Q.あなたは、自分の学校以外の場所で練習を行うことについて、どう思いましたか?

・学校の設備だけではできない練習もあるので、そういった練習ができて良かったから。
・場所が違うからという理由で、することが厳しいわけではないし、色々なところで練習して、大会等の本番に慣れることもできると思ったから。

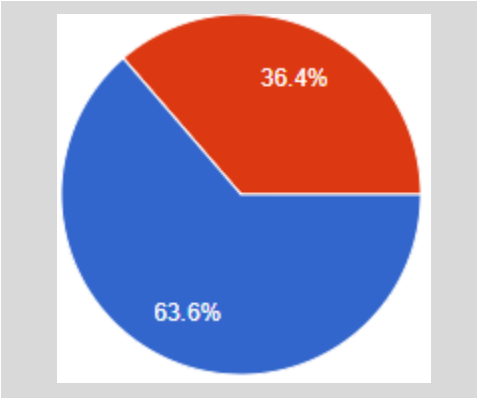
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

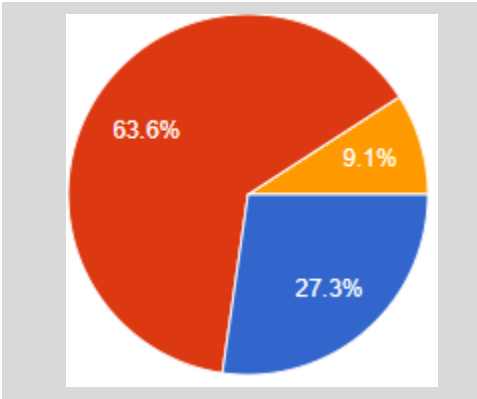
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

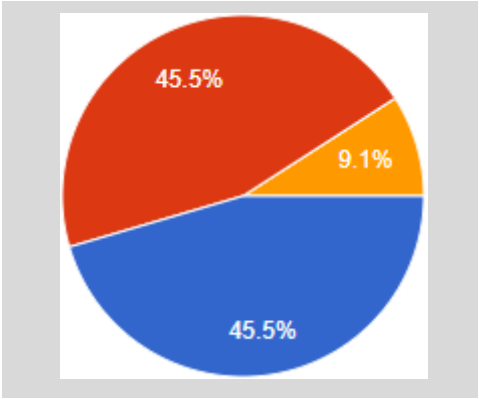
Q.あなたは、地域スポーツクラブの指導者の指導について、どう思いましたか?



Q.あなたは、平日の練習も地域クラブで実施されることとなった場合、どう思いますか?



Q.休日の練習に学校の先生がいないことについて、どう思いましたか?



- とてもよいと思う。
- よいと思う。
- よくないと思う。
- とてもよくないと思う。

●参加者の声

Q.あなたは、地域スポーツクラブの指導者の指導について、どう思いましたか

・陸上競技をよく知っている方々がいて、質の良い指導が受けられたから。

・みんなが気をつけた方がいいところをこのように意識したら言いよとアドバイスしてくれるからわかりやすい。

・一人一人に寄り添ってくれるし、専門的なことも教えてくれる楽しく学ぶことができるし、いい練習ができていると思う。

Q.休日の練習に学校の先生がいないことについて、どう思いましたか?

・学校の設備だけではできない練習もあるので、そういった練習ができて良かったから。

・学校部活動として、練習に参加しているのに、顧問の先生がいないのは何か違う気がしたし、生徒のことをよく知っているのも先生だからいなかったら緊急時の対応が難しいと感じたから

Q.あなたは、平日の練習も地域クラブで実施されることとなった場合、どう思いますか?

・専門的な指導者がいることでより技術力の高い集団ができあがると思うから。しかし学校の先生はいた方が交流が増え学校生活のなかでの部活動の情報交換がしやすいと思う。

・コーチの方指導があるのはとても嬉しいことですが、平日は親の送迎が難しいので学校でやってもらいたいです。

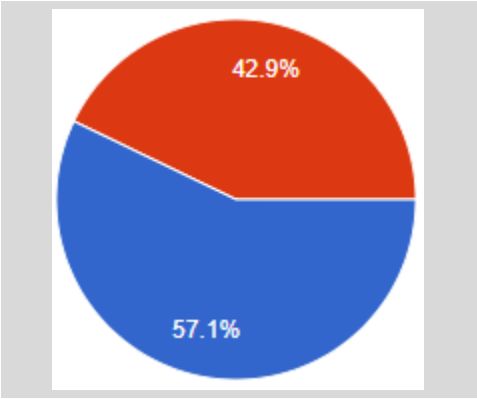
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

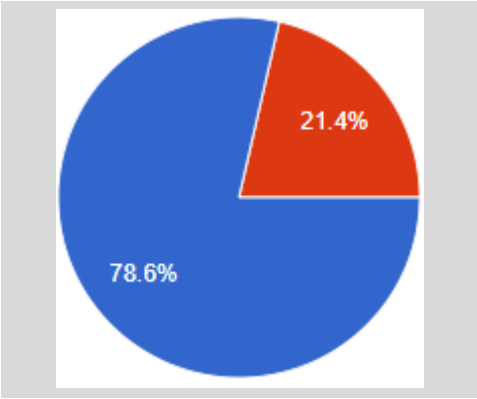
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

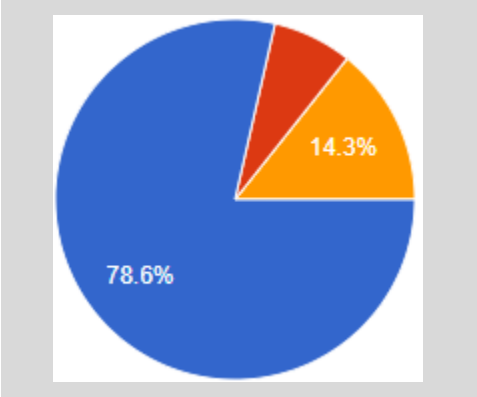
Q.お子様が、土日の練習を地域クラブで行ったことについて、どう思われましたか?



Q.お子様が、他の中学校の生徒とともに練習することについて、どう思われましたか?



Q.お子様が、自分の学校以外の場所で練習を行うことについて、どう思われましたか?



●保護者の声

Q.お子様が、土日の練習を地域クラブで行ったことについて、どう思われましたか?

・場所や時間等の物質面でしっかり練習ができる。小学生の頃からクラブに入っているので、本人も保護者も戸惑うことは特になかった。
・コーチをはじめ沢山の地域の方々に支えられ子供が成長していること。

Q.お子様が、他の中学校の生徒とともに練習することについて、どう思われましたか?

・交友関係が広がった。
・沢山の人と関わる事がプラスになると思うから。
・初対面の人と接する事に慣れてきた。
・コミュニケーションが取れるようになったと思う。

Q.お子様が、自分の学校以外の場所で練習を行うことについて、どう思われましたか?

・違う環境で練習することは色々な面で有意義だと思う。
・基本的には問題ない。ただ、練習場所への行き帰り、団体で行動する計画をきちんと示してほしい。管理が中途半端なのに携帯電話の持参を認めないのは矛盾していると感じる。連絡用に認めてほしい。行き帰りも、全員で交通機関で移動するようにしてほしい。部活動は学校集合、学校解散が基本だと思う。

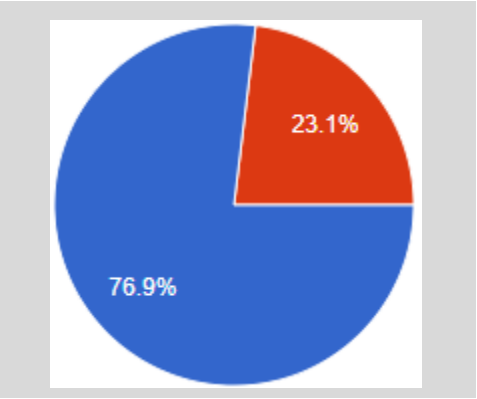
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

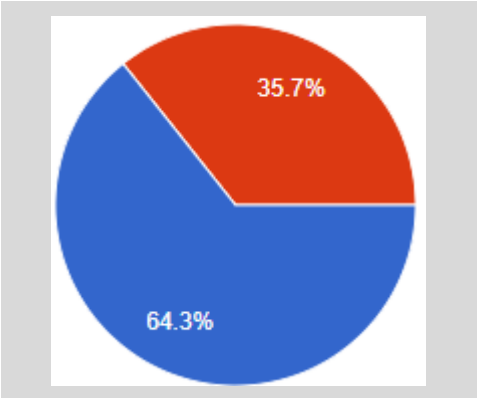
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

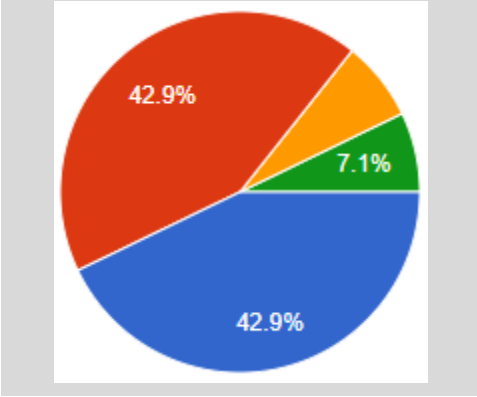
Q.地域クラブの指導者の指導について、どう思われましたか?



Q.今後、部活動が地域クラブで実施されることとなった場合（平日及び休日）、どう思われますか?



Q.休日の練習に学校の先生がいないことについて、どう思われましたか?



●保護者の声

Q.地域クラブの指導者の指導について、どう思われましたか?

・指導者としてのキャリアがあり、プロの目線でしっかり見てくれている。陸上のことだけでなく、社会のルールも併せて指導してくれる。

・熱心なご指導。厳しさと優しさ、温かみが子供の成長を促していると思うから。

Q.休日の練習に学校の先生がいないことについて、どう思われましたか?

・クラブから保護者への連絡ツールも確立されていたので問題ないと思った。

・コーチを信頼しているので問題はないです。

・責任の所在がわからない。

Q.今後、部活動が地域クラブで実施されることとなった場合（平日及び休日）、どう思われますか?

・各競技で専門的な指導を受けることを期待できるから。

・地域クラブで行う方が良いという判断なら仕方ない気もします。部活動がなくなるのは寂しいです。

・先生たちの負担も減り、生徒たちもより専門的な指導が受けられる。

・管理者、責任者が誰なのかはっきりしてほしい。

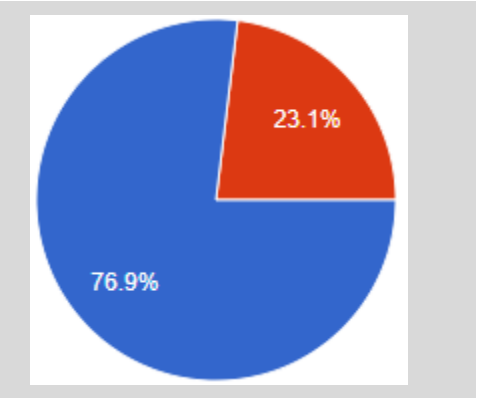
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

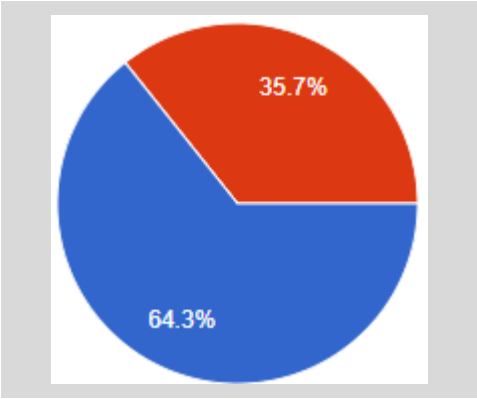
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

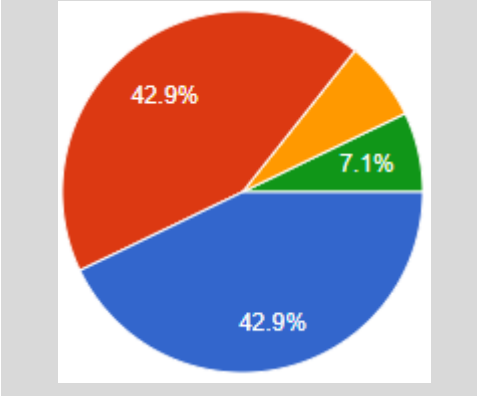
Q.今後、部活動が地域クラブ活動へ展開された場合 （平日及び休日） 、お子様を参加させようと思われますか。

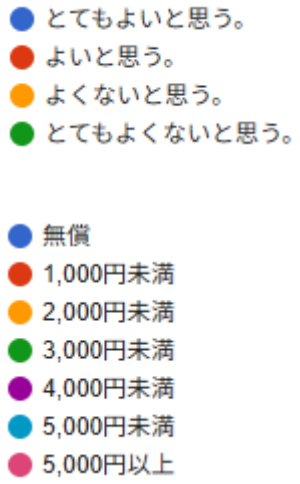


Q.お子様を平日（月20日程度）の地域クラブへ参加させる場合、受益者負担はどの程度が適当だと思われますか?



Q.お子様を休日（月4日程度）の地域クラブへ参加させる場合、受益者負担はどの程度が適当だと思われますか?





●保護者の声

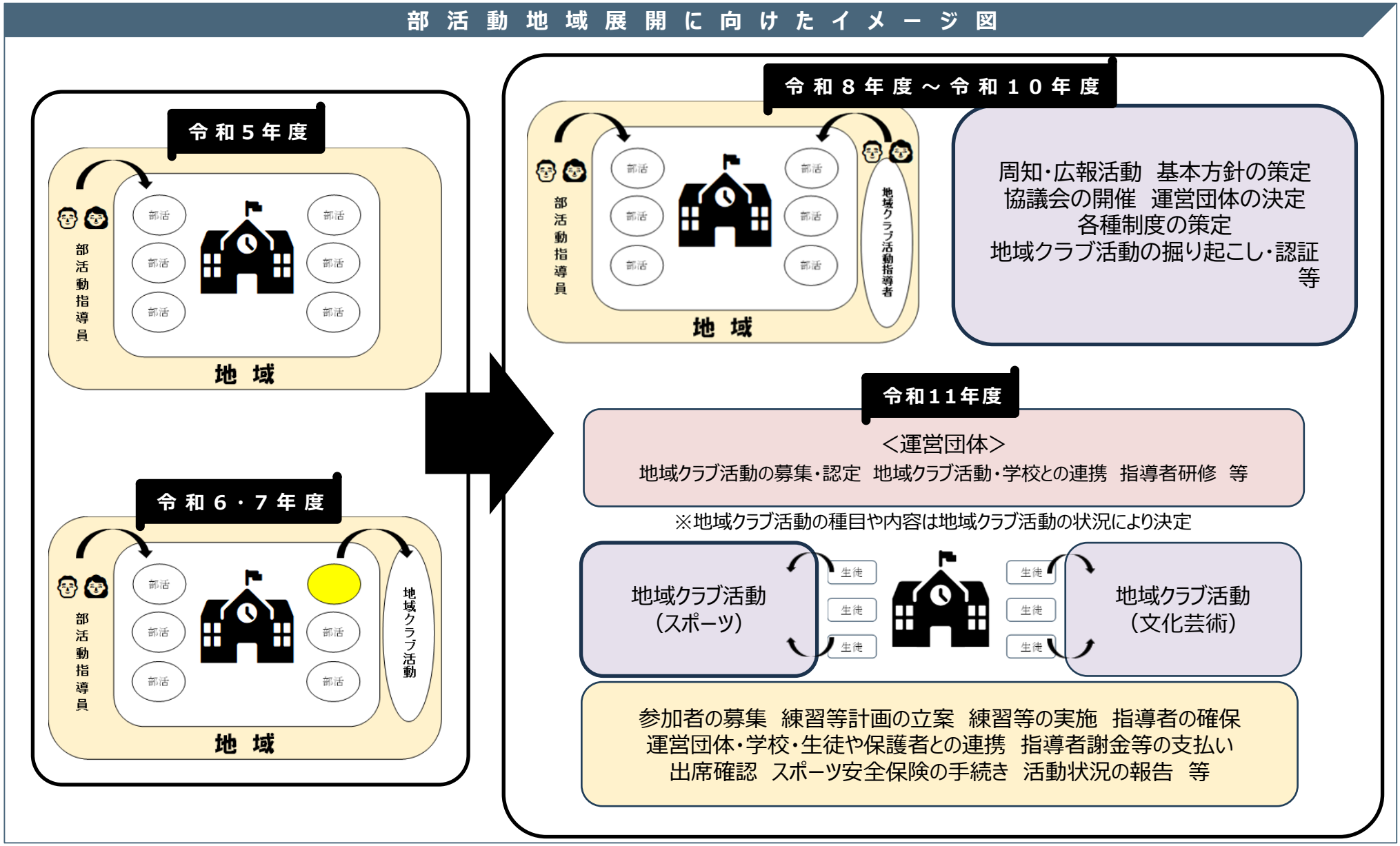
Q.地域クラブに求めることを教えてください。

・専門性の高い良き指導者がおり、安全に過ごせるかどうか。
・指導者の人格と練習の環境。
・日程時間や練習メニューを保護者にも共有してほしい。子どもたちだけだと聞き逃しもあるので。
・学校との連携をしっかりしてほしいです。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

部活動地域展開に向けたイメージ図



3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

